

# あつぎものづくりブランドプロジェクト 「ATSUMO」

厚木商工会議所副会頭 中村 幹夫

## 産学公連携でのプロジェクトの始動

1980年代後半、日本はバブル経済の絶頂期で中小企業も経営資源に余裕が有り、異業種交流グループの活動が盛んでした。特に神奈川県は、全国に先駆けて活動したパイオニア的存在で、中でも神奈川県異業種交流グループ連絡会議（異グ連）は、リーダー的な存在を果たしていました。県央地域においても、13グループが集結して県央異グ連を結成し、華やかな時代でした。

バブル崩壊後、異業種交流グループ数は激減し、残ったグループも、大部分が仲良しクラブと化して本来の活動が衰退していきました。一方で、産学公の活動については、以前から厚木商工会議所内で組織化され長い間続けておりましたが、数年前には休会状況となっておりました。

こうした状況を打開するために、異業種交流活動と産学公活動を合体させて、21世紀にマッチした新しいスタイルの交流グループづくりを模索していました。そんな時に、厚木市産業振興部から、「あつぎものづくりブランド2012」への参加依頼を頂きました。この「あつぎものづくりブランド2012」では、同市職員と厚木商工会議所の工業部会担当職員が一緒になり、市内のブランド中小企業50社の紹介冊子を作成して、完成時に交流会を開催しました。このイベントをきっかけに、同市産業振興部とのパイプを太くすることができました。

また前後して、市内理工系大学の学長さんからは「地元企業とのコラボレーションを積極的に推進したい」、神奈川県産業技術センターの所長さんからは「中小企業の新技術開発に積極的に協力したい」、とのお話を頂きました。学長、所長さん共に民間企業のご出身の方で、中小企業の立場をよく理解していただきました。

これだけの条件が揃えば、産学公も含めた異業種交流の新組織が作れると判断して「あつぎものづくりブランドプロジェクト」の設立準備委員会を立ち上げました。それぞれにおける過去の問題点を洗い出し、発想を新たにして検討を繰り返しました。そして、次の内容にて設立総会でも承認され活動をスタートさせました。



二足歩行ロボットを操作する中村氏

## ATSUMOの目標

グループ名は、あつぎの「ATSU」とものづくりの「MO」でATSUMOとしました。過去のグループ活動経費は補助金ありきが多く、結果が出なくても自分達の腹は痛みませんでした。しかし今回は、我々参加企業が手弁当で進める覚悟で、金融機関からの借入金も視野に入れて活動しようと決めました。このスタンスは行政との信頼関係にもつながり、結果的には補助金も配慮いただけることになってきます。そしてタイミング良く、設立総会直前には県央地区が「さがみロボット産業特区」に指定されました。このチャンスを逃すことはないと考え、ATSUMOの知名度を上げるためにも、ロボット花火を打ち上げることにしました。平成27年は厚木市の市制60周年というこ

ともあり、それに間に合うように人間大の二足歩行ロボットを製作することを市長とも約束しました。

具体的な取り組みとしては、ロボット開発のノウハウを持った理事が、地元大学と連携して試作ロボット(90cm)の設計を行いました。今年11月の国際ロボット展には、県央地域では先駆けとなる「メイドイン厚木」の二足歩行ロボットを出展する予定です。その後は、この試作ロボットでトライ&エラーを繰り返して、年明けの4月頃には、人間大のロボット(ロボコロ)を完成させることになっております。今後の定例会では、このロボットにどのような機能を持たせるのか検討する予定です。なお、ロボットの設計が完了すれば、その製作図面を市内のメンバー企業に奉仕価格で渡して、パーツ製作に取り掛かります。

#### ATSUMOの委員会の取り組みと産学公交流の展望

ATSUMOは、単にロボットを製作することだけが目的ではありません。ATSUMOには、ロボット委員会、産学公推進委員会、企画委員会、親睦委員会と4つの委員会があります。

第1に、ロボット委員会では、さがみロボット産業特区の盛り上がりを活用してPRを推進していきます。また、この委員会で製作したロボットをグレードアップさせて、市のイベントに出演させる等、次世代の子供達のロボットへの興味とモチベーションアップを図ります。合わせてロボコン等のイベントも計画します。「さがみロボット産業特区」では、介護・医療、災害対応、高齢者等への生活支援の3分野でロボットの実用化に取り組まれています。ロボットの原動力は、モーター・エア・油圧・リニア等であり、コントロールするCPソフトの開発もすべてに共通しています。二足歩行ロボットも、ハードとソフトを変化させれば、将来はさらに役立つロボットに変身すると確信しております。

第2に、産学公委員会ですが、この委員会は今後のATSUMOの重要な委員会となります。今回のロボット製作も産学公の具体的な例の一つですが、すでにロボット以外のテーマも検討中です。中小企業が大学と気楽に交流でき、新事業が進められる仕組みを構築したいと考えています。

第3に、企画委員会では、当会がさらに発展するための新しい企画を考えます。現在はATSUMOのホームページ製作を担当し、中身については大学と協力して斬新な発想で進めています。ロゴマークのデザインも、大学生に作ってもらいました。

最後に、親睦委員会は、コミュニケーションを受け持つ大事な委員会です。我々は、定例会の終了後、安い居酒屋等で必ず懇親会を実施します。以前は学公の方々は、このような会への出席は消極的で、産の人達だけの交流会になるケースが多かったと思いますが、この会は必ず出席をお願いして協力を頂いています。当然、費用はすべて割り勘で、公職の終了後です。

現在ゴルフコンペも計画していますが、こちらも以前は産学公それぞれにおいて、職務規定等の壁があり、何かと問題があったと思います。しかし、日本流のこのような交流ができる場を作り、現状の壁を乗り越えて交流するならば、立場は違ってもお互い同じ人間同士、休日に自費で産学公の皆さんと、節度を持って一緒に楽しんで悪いことはないと考えます。そうした交流の中で、建前の付き合いではなくお互い本音の人間関係が構築されると信じます。

特に、行政は定期的な人事異動があり、難しい所もありますが、我々の会風が確立すれば、仮にメンバーが変わっても問題なく理解されると信じます。産学公の交流も、具体的に何かを変えていかなければ、過去の繰り返しになります。ATSUMOはこれからも産が中心になり、手弁当で自分達から積極的に動き、学公の協力を頂きながら地域の活性化と各社の技術革新を目指して活動します。



ATSUMO定例会の様子